

主題：信徒

メッセージ 20

信じること——信徒が召会生活の中でクリスチャン生活を生きる唯一の道

聖書：ローマ 1:5, 12, 17. 3:22. 4:12. 5:1-2. 10:9-10, 17, 12:3, 16:25-26

I. 神の奥義は現され、知らされ、信仰の従順へと至りました——ローマ16:25-26. 1:5:

A. 神の奥義はおもに二つの面から成っています:

1. 神の奥義はキリストであり、命またすべてとして信徒たちの中におられます。それは彼らのご自身のからだの肢体となるためです——コロサイ 2:2. 1:26-27。
2. キリストの奥義は、ご自身のからだとしての召会であり、ご自身の豊満を表現します——エペソ 3:4-6. 1:22-23。

B. この時代における神の唯一の命令は、わたしたちが神の御子を信じることです。わたしたちがキリストの中へと信じる時、わたしたちは信仰の従順を持ちます——ヨハネ 3:18. ローマ 1:5. 使徒 6:7

C. 全体的な福音とは、信仰の内容であり、神と人の両方であるキリストの二つの性質と、彼の死と復活を通して完成された贖いの働きを中心として伴っています。この信仰に従順であることは、異教の宗教と哲学からこの信仰、すなわち、信じて受け入れることへと向きを変えることです。——ローマ 1:3-4. I テサロニケ 1:8-9

II. 信じることは聞くことから来ます——ローマ10:17:

A. 言葉の三つの面があります。すなわち、神の言葉である聖書、神の生ける言葉であるキリスト、神の適用された言葉であるその霊です。——ヨハネ 10:35. 1:1. 6:63. エペソ 6:17。

B. 信じることは書かれた聖書からの生けるキリストを通して、その霊によって適用された言葉を聞くことから来ます。これが信じることの源です。

C. 信じることは神を信じ、キリストを信じ、その霊を信じることです（ローマ 3:22. ガラテヤ 2:16, 20. 3:22, 26）。ですから、信じることは具体化され、実際化された三一の神を信じることです。

III. 神の義はわたしたちに現され、わたしたちがキリストを信じることを通して義とされることへと至ります——ローマ1:17. 3:21-22, 30. 9:30. 10:4, 6:

A. 神はイエス・キリストを立てて、なだめの場所とされました。それは彼の血を信じることを通してです—— 3:24-25。

B. 義認とは、神の義の標準にしたがってわたしたちを承認することにおける神の行為です—— 28 節. 5:1-2。

C. 信徒の信じることは、彼ら自身の信じるのではなく、キリストが彼らの中に入って、彼らの信じることになることです—— 3:22:

1. 彼らが神へと悔い改めるとき、聖別する霊としての霊なるキリストが彼らの内側で動き、彼らの信じることになります。それによって彼らは主イエスを信じます—— I ペテロ 1:2 前半. 使徒 16:31。

2. そのように信じることによって、わたしたちは、神がイエス・キリストを死人の中から復活させたことを信じます。それは、わたしたちが救われ、恵みに近づいて、恵みの中で立つためです—ローマ 10:9-10。
3. 信じることとしてのキリストご自身は、わたしたちの信じることとなります。それはわたしたちを無限の、無制限のキリストに結び付け、ご自身をわたしたちの中へと注入します— 3:22。

IV. わたしたちは自分自身について思うべきことを超えて、思い上がるべきではありません。むしろ、神がそれぞれに割り当てられた信心の度量にしたがって、冷静な思いで思うことができます— 12:3, 6 :

- A. 自分自身について思うべきことを超えて、思い上がることは、からだの生活の正常な秩序を無効にすることです—参照、II コリント 10:12-13。
- B. 神は信心の度量をわたしたちに割り当てられただけでなく、信仰心もわたしたちに割り当てられました— II ペテロ 1:1. ローマ 12:3。
 1. 彼がわたしたちに同じ信心を与えられたのは、質においてであって、量においてはではありません—ルカ 17:5-6. II コリント 10:15。
 2. 神はまずわたしたちに信仰心を割り当てられ、それから量において信仰心を割り当てられました：
 - a. わたしたちが持っている信心は、神の割り当てられることにかかっています—マタイ 17:20. マルコ 11:22-24。
 - b. わたしたちがどれだけ信心を持っているかは、神の割り当てられることにかかっています—使徒 6:5. 11:24。
- C. 召会生活においてわたしたちは相互の信心、すなわち、「互いの信心」を享受しています。これを経験することは信心を割り当てることの中にいることです—ローマ 1:12. 12:3, 6。

V. わたしたちが召会生活の中で、クリスチャン生活を生きる時、わたしたちはアブラハムの信じることの足跡にしたがって歩いています— 4:12 :

- A. キリストにある信徒として、わたしたちはアブラハムの歴史を繰り返しています—ガラテヤ 3:6-9 :
 1. クリスチャン生活とはアブラハムが生きた生活です。彼の信じることの生活は、現在、わたしたちの間で繰り返されます—ローマ 4:12。
 2. 神がアブラハムに働かれた方法は、彼がすべての信徒に働かれる方法です。
 3. 召会生活は今日、アブラハムの生活と歴史の収穫です— 13 節. 12:5. 14:17。
- B. アブラハムは信じることによって神の召しに従いました—ヘブル 11:8. ローマ 4:1, 12. ガラテヤ 3:7 :
 1. アブラハムは、神によって召されたとき、信じることによって出て行きました。彼はどこへ行くかを知らないで出て行きました—ヘブル 11:8。
 2. アブラハムの信じること (faith) は、彼自身からのものではありませんでした。むしろ、彼の神を信じること (believing) は、神の要素が彼の中に注入されたことに対する反応でした—使徒 7:2。
- C. アブラハムは信じることによって義とされました—創 15:6. ローマ 4:2-3 :

1. アブラハムの信じることは、神が彼に注入した要素が彼の内側でわき出たものです——3節。
 2. アブラハムの信じることに對する神の反応は、彼を義とすること、すなわち、それを彼の義と勘定することでした——創 15:6。
- D. アブラハムは信じることによって生きて、祭壇と天幕の生活を生きました——ヘブル 11:9. 創 12:7-8 :
1. アブラハムが祭壇を築くことは、彼が神のためであったことを証します——8節。
 2. アブラハムが天幕に住むことは、彼がこの世に属していたのではなく、地上で寄留者の生活を生きたことを示しています。
 3. 信じることによって生きるために、わたしたちはまず、わたしたちの地上での生活が神のためであることを表徴する祭壇を築かなければならず、次に、わたしたちがこの世に属していないことを示す天幕を張らなければなりません。
- E. アブラハムは神との交わりの中に生き、人の水準で神と交流しました——創第 18章。
- F. アブラハムは一つの基本的な学課を学びました。すなわち、それは神は父であるということです——エペソ 3:14-15. 4:6 :
1. 父なる神を知ることは、彼が源、唯一の創始者であって、あらゆるものは彼から起こることを知ることです——マタイ 15:13. 14:19。
 2. アブラハムが学ばなければならなかった基本的な学課は、神があらゆるものを開始される方であることを知ることでした——ヨハネ 5:17, 19-20 前半, 30. 7:16-17. 8:28. 17:4。
 3. わたしたちはみな、神は父であって、あらゆるものは彼から出ていることを見る必要があります——I コリント 8:6 前半. マタイ 16:17. エペソ 1:17. コロサイ 1:12。
- G. イサクが生まれた時、アブラハムは無から有を呼び出される方である神を信じ、経験しました——ローマ 4:17-21。
- H. アブラハムが、祭壇で、全焼のささげものとしてイサクをささげ、その後、彼を再び受けたとき、アブラハムは死人に命を与える方である神を信じ、経験しました——17. ヘブル 11:17-19. 創 22:1-19 :
1. アブラハムはベエル・シバで、御柳の木、すなわち、経験され、表現された命の木を植え、わたしたちの永遠の命である、隠れた、奥義的な方、**永遠の神**、エホバの御名を呼び求めた。
 2. ベエル・シバでの生活は、モリヤの山で神にささげられた全焼のささげものをうみだしました。——ヨハネ 5:17, 19-20 前半, 30. 7:16-17. 8:28. 17:4。
 3. わたしたちはみな、神は父であって、あらゆるものは彼から出ていることを見る必要があります——I コリント 8:6 前半. マタイ 16:17. エペソ 1:17. コロサイ 1:12。
 4. わたしたちが神から受けたものを神にささげた後、神はそれを復活の中でわたしたちに返されます。そして、それは神の定められた御旨の成就のための祝福となります——創 22:12-13, 16-18. ヘブル 11:19。

- I. 旅人であり、寄留者であるアブラハムは、「土台のある都を熱心に待ち望んでいたからです。その設計者と建築者は神です」—— 10 節：
1. 今日わたしたちは寄留者、天の巡礼者であり、わたしたちの永遠の目標に向かって険しい道を旅しています—— I ペテロ 1:1, 17. 2:11。
 2. アブラハムの幕屋は新エルサレム、すなわち究極の幕屋の縮図でした—— 創 12:8. 13:3. ヘブル 11:9. 啓 21:2-3。
 - a. 勝利者は天幕で生活し、新エルサレム、永遠の幕屋、真の仮庵の祭りを待ち望みます—— レビ 23:39-43。
 - b. わたしたちは召会生活という天幕の中で生き、その究極的完成、すなわち新エルサレム、土台のある神の都を待ち望んでいます—— ヘブル 11:10。